

平成 27 年度 第 1 回萩市立図書館協議会 議事録

平成 27 年 6 月 25 日 (木)

10:00 ~ 12:00

会場 萩市立萩図書館

出席者 協議会委員 9 名	三好健二委員・津田和夫委員・大島昌子委員 鎌分朋世委員・小池美晴委員・安達和代委員 藤原重子委員・福島和子委員・杉山芳文委員
教 育 長	中村 哲夫
事 務 局	萩図書館 高木館長・江山副館長・横山補佐 蜂屋係長 須佐図書館 山本館長・河口主任 明木図書館 野上館長・森岡主任司書 田万川中学校図書館 杉山主査 N P O 萩みんなの図書館 澤井理事長

【委嘱状交付】

1. 開会のことば（山本館長）

4 月の異動で須佐総合事務所地域振興部門、兼任の図書館館長として就任した。須佐の災害から 2 年が経過した。復興・復旧が進んではいるが、まだまだ地域とすれば復旧が終わっていない。須佐図書館も被害をうけ、一部床上浸水し 1 ヶ月休館した。皆様のご支援を受け、無事開館した。感謝する。地域の人への利便性を図るため、24 時間図書館サービスの運営をしているが、人口も子どもも減り、利用も減っている。地域からも協議会委員をお願いしているが、萩図書館を中心に 4 館が連携して図書館サービスをしていきたいと思う。これからを共に考えていただきたい。忌憚のないご意見等をお願いする。

2. 教育長あいさつ

今日は、様々な分野で活躍している皆様が図書館協議会に参加していただき、益々図書館の活動が充実していくことを期待する。2 年間よろしくお願ひする。

今、図書館は大変特色ある活動を展開している。図書館というと公共図書館だけをいうのではなく、学校図書館についても併せて考えている。本へ誘うという意味で、つい先日、ここでも市長が参加して読み聞かせをしていた。朝早くから小学校に読み聞かせに行って いる職員もいる。こういう活動を通して、子どもだけでなくたくさん的人が本に親しんでいる。N P O が関わっているこの図書館も特色ある展開がなされている。

来年度からまた 1 つ新しい展開がある。村立図書館としては最古といわれている明木図書館が、明木小・旭中学校と併設して建てられる。田万川中学校も地域に解放しているが、市立図書館が学校に併設して建てられるという新しい展開が、今後の新しい取り組みのスタートになることを期待する。

4. 図書館協議会会長・副会長の選任について

横山補佐 会議の議長は会長が務めることになっているが、改選でまだ決まっていない。それまでは、事務局が会を進める。会長は互選による。意見は。無いようですので、事務局から案を示したい。会長を前期に引き続き三好委員に、副会長を館分委員にお願いしたい。

【拍手にて承認】

横山補佐 会長・副会長、前の席へ移動をお願いしたい。挨拶を一言ずつお願いする。

三好会長あいさつ

ご指名により、前期に引き続き会長を務める。図書館協議会は、図書館法第14条に、図書館の運営に関して館長の諮問に応じること。図書館サービスについて、館長に対して意見を述べるとある。1979年に採択された図書館の自由に関する宣言というのがある。「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。」ということ。その中には、「資料収集の自由」つまり選書の自由。「資料提供の自由」「利用者の秘密を守る」「すべての検閲に反対する」ことがあげられている。最近制定された特定秘密保護法の制定により、国民の知る権利が脅かされているのではと危惧している。図書館というのは読み手が主体。読み手の知る権利に応じる義務があると理解している。松江市で「はだしのゲン」の閉架、直近では、神戸連続児童殺傷事件加害者の手記が問題となっている。図書館は一定の価値観や思想を持たず、読み手のために購入すべき。金子みすゞではないが「みんなちがつてみんないい」。利用者としての意見だが、みなさんも忌憚のない意見をお願いしたい。

館分副会長あいさつ

今回で3期目です。みなさんと一緒に良い図書館にしていきたい。

横山補佐 規定により、議長は会長があたることになっている。三好会長に議長をお願いする。

5. 議事

図書館サービスの現況と課題について

<現況>

(1) 各図書館の概要と活動報告等

会長 各館の概要及び活動状況についての説明をお願いしたい。

横山補佐 荻図書館の概要と活動報告等について説明 (パワーポイント)

河口主任 須佐図書館の概要と活動報告等について説明 (パワーポイント)

森岡主任司書 明木図書館の概要と活動報告等について説明 (パワーポイント)

杉山主査 田万川中学校図書館は図書館のなかった田万川地域に、中学校の校舎建設時に、地域に開かれたオープンスクールということに併せ、地域に開かれた図書館として作られた。地域の団体が使っているスペースがあり、図書館を利用する一般の人もそこを利用して

いる。他の図書館とは異質な図書館で難しいところもあるが、できるだけ利用してもらえるよう努めている。

(2) 各図書館等との連携

横山補佐 各図書館等との連携について説明 (協議会資料1)

(3) NPO法人との「協働」による管理運営体制

澤井理事長 NPO法人との「協働」による管理運営体制について説明 (協議会資料2及び年報)

会長 各館からの説明があつたが、何か意見や質問は。

委員 岡山県の中都市の図書館に孫と一緒に行った。とても静かで本もそろっており借りやすい。居心地がよいが、子どもの数が少なかったことが印象的。帰って聞いてみると、他の子ども施設が充実しており、図書館は本の提供に専念するという方針。地域のニーズによって、図書館の運営も違う。萩市では子どもが大切にされていると感じた。子どもたちを地域全体で知的に育てていって欲しいと思う。中学生は自習する場所があるが、小学生・保育園児が母親と一緒に勉強したい場合に、子どもが声を出せるような居場所が欲しいという意見を聞いた。図書館は中学生が一番多いと感じる。高校生の場合は試験勉強のための場所は学校で確保されているらしいが、学習ブースが十分あれば。博物館の道迫氏の言葉で「物語ではなく、史実に基づいた論文を心がけている」とあった。レファレンスコーナーで、高校生を育てるための支援ができればよい。幼・小・中・高と子どもの成長を後押しして欲しい。

高木館長 幼児・小学生のコーナーには仕切りが無い。ご指摘のこと、考えてみたい。中学生は現状ざわついている。高校生については、進学のためには用を成す所ではない状況。知的好奇心を満たすための高校生の利用には、レファレンスの奥の部屋に誘導することを考えたい。

この図書館は若干ざわついている。県立図書館は静謐な中で本を読んでいるが、この市には、他にコミュニティセンターがないということ、若者が集まる場所や高齢者が待ち合わせる場所がないという要素があり、図書館は市民のサロン的要素を強めるという意図がある。誰もが集まり、本を読むだけではない社会勉強という幅を広げている。3年経った今、少し和らいでいる。ご指摘の件はありがたい。内部で詰めていきたい。

会長 レファレンス担当者としてひと言。高校生からのレファレンスはない。小学生からはある。教師から自分で調べるようにといわれてきているようだ。高校生については、日本史は必須となっているのか、博物館へレファレンスがいっているのかもしれない。

委員 図書館には長期滞在、さっと借りて帰る、夜だけ来るなど、色々な利用パターンがある。読みたい本は入口にあることが多い。なかなか奥までは。入口をますます充実させて欲しい。目的の本が貸出中で無いことが多い。貸し出しされたら代わりの本を置くなどして補充して欲しい。年代別の特集など、興味を引く、書店にはないような特集を。子どもたちがたくさん来ればうれしい。マナーが悪ければ注意できる親になりたい。みんなで育てるようにしたい。

駐車場がいっぱいいで、第3駐車場も入りづらくなつた。来れば魅力的な図書館だと思う。食わず嫌いではないが、一度も来館しない人がいる。

高木館長 駐車場については後ほど説明する。図書館はPRが下手だということを感じた。新刊の一覧が週ごとに作って綴じてある。借りられた本は予約することもできる。そういった

- しくみをしっかりPRしていない。広報や案内の方法をもう一度よく考えてみる。
- 会長 利用する人はよく利用するが、しない人は全くしないと感じる。
- 委員 萩がざわついた雰囲気という話に関して。須佐図書館は小規模で、職員の努力もあり、子どもたちが集まってとても楽しい雰囲気で和んでいる。たまに萩図書館に来ると、時間帯もあるかもしれないが、静かで緊張する。須佐では馴染んでいて会話をしながら借りるが、萩図書館ではカウンターの方もきちんとしていて、よそよそしい感じを受ける。雰囲気は良いと思う。子ども図書館では、児童館入口で名前を書いて入ってくれと言われた。面倒になり足が遠のいている。
- 高木館長 児童館では入口で名前を書くが、子ども図書館利用者は書かなくてよい。それも含めて、PRが足りていない。
- 委員 今は休んでいる期間。図書館の利用はマイブーム的に、新聞などで話題の本が紹介してあると、図書館の蔵書を家で検索をしてみる。あればそれがきっかけになってしばらく通ったり、忙しくなるとまた遠のいたりと、それを繰り返している。ヘビーユーザーではないが、図書館は利用している。息子が読んでいた本を見て、夫がその作家の作品が読みたくなったらしい。本を買って増やすのもいやだから図書館に行ってみようと思ったので、1名増えた。
- 母も昔はよく本を読んでいた。友達が図書館に行っているので行きたいが、足がないからと億劫になっている。連れて来たいと思ってはいるが、まだその機会がない。そのうち連れて来たい。
- ひとつ気になるのは、小説はよいが、ものを作ったり、調べたり、経済や年金などの本は古いものが並んでいる。制度などが変わり、役に立たないものがある。それなら無いほうがよい。そこに並んでいるのに中身が十分でないのが残念。
- 高木館長 ご指摘の件は、私の方針の間違っているところ。本の廃棄ができるだけしないようにということを言っているが、現場に間違って伝わっている。社会制度が変わると新しいものを買っている。新しいものは借りられており、残っているのは古いもの。古いものは廃棄せよというご指摘。古い新しいという時に、法的なものや制度が変わったものは、明らかに古くて廃棄の対象となる。ただ、伝統工芸など、本質的には変わらないが、本が傷んで古くなったものは、廃棄したくない。それを求める利用者もいる。その峻別がよく行き届いていないということ。反省。北朝鮮の問題などはすぐに古くなるが、最初は時事として買ったものが、そのうちの何冊かは歴史そのものとなる。その配架の切り替えもやっている。ご指摘の件、100%反省をし、気をつける。
- 委員 新館ができる前の図面などは見たことがあったが、開館後は初めて来た。田万川はここから1時間かかる。利用は難しい。現在、田万川の利用者はWeb予約をしている人が何人かいる。須佐図書館までは10分くらいで行けるので、そちらをよく利用しているのではないか。24時間使えるため便利。子どもも、部活で遅くなると開館時間中に行くのが難しい。だから親子で利用されることが多いのでは。団体貸出も以前は萩図書館から300冊借りていたが、今は須佐図書館から借りている。須佐図書館との関係が密になった。
- 益田市立図書館では、子どもコーナーの近くが学生の勉強スペースとなっている。一般的な読書スペースは奥の方。勉強中の会話も気にならない。田万川中学校図書館でも、楽しく勉強をするグループと本気で勉強をするグループとに、自分たちなりのコーナー分けをしている。

委 員 広報の一つとして、市民との接点を作ることが大事。新刊本のリストを毎週綴じられているが、知らせるだけでも接点が作れるのでは。市報の配布時に図書館だよりを月1回でも発行をするとよいのでは。前は、新刊を一週間展示していたが、今はリストのみ。リストでは検討がつかない。実物を見られるほうがよいと思う。

江山副館長 両方の意見がある。なぜ新しい本を一週間も置いておくのか、すぐに借りたいという方もいる。方針をかえてみた。図書館の予約制度を知っている人はよく利用されているが、知らない人もいる。新刊を一週間展示し予約を受けていた時期、同規模の図書館の中では全国的にも予約の件数がとても多かった。新刊の方式を変えることによって予約が減ると思ったが、変わらなかった。読みたい方はリストを見ながらでも予約をされている。萩図書館の新刊はいつも借りられている状態。読みたい本は予約しないとなかなか借りられない状態。

〈課題〉

(1) 図書館利用者の固定化

横山補佐 図書館利用者の固定化について説明 (協議会資料3及び年報)

諮問事項。年2回、このあと3回の図書館協議会において、一緒に考えていただきたい。利用者層の拡大、新規の利用者を増やしていくよう図書館もがんばっているが、皆様のご意見をいただき、参考にしていきたい。

高木館長 課題については、今回は説明のみ。次期からの計画・取り組みを会長・副会長と相談しながら、皆様のご意見ご指導を仰げる形に持っていきたい。

(2) 学校図書館との連携

江山副館長 学校図書館との連携について説明 (協議会資料4)

まだ十分に互いに連携しながら図書館を活用してもらっている状況ではない。これから少しでもネットワークを整備しながら連携していきたいと考えている。

(3) 市職員司書、NPO職員司書の人材確保

高木館長 市職員司書、NPO職員司書の人材確保について説明 (協議会資料5)

NPOとの協働は難しいものなので、格段のご協力・支援を。

全国で1館のみ。壮大な社会実験。自主財源比率が低いことから、心理的に上下関係ができてしまう。今は理事会が理解して円滑にしているが、組織としてしっかりとしたものになるには市の理解も必要。年代を繋いで市の職員の司書職を採用しておかなければ、連携するNPOとの連繋が難しくなる。市に一般職として司書資格を持つものを採用するよう申し出ている。

NPO職員は時限雇用となっているが、労働契約法の改正により5年勤務した者は定年まで雇用できる状況になる。本庁の理解、理事会の理解が必要。NPOの良い点は、待遇などについて、理事長の判断である程度の自主裁量ができること。

6. 報告

(1) 子ども読書活動推進事業について

江山副館長 子ども読書活動推進事業について説明（協議会資料6）

昨年、山口県がフォーラムを開催した事業があるが、今年度は萩市と下松市で地域フォーラムを実施できる。萩市内の学校の読み聞かせ・子育て支援に関わっているグループ等のネットワークを整備して、子ども読書を支援する体制を作り上げたいと思っている。実行委員の立ち上げを計画しているが、協議会委員からも加わりご協力いただきたい。

(2) 図書館界の現況

高木館長 図書館界の現況について説明（協議会資料7）

県下には56の図書館がある。上関町図書館が4月からオープンした。56の図書館で協議会をつくり、理事会を組織している。理事は7人、県立図書館長が理事長、副館長の江山も理事の一人として県下の図書館の動向に関与している。

(3) 「ライブラリーセッション」「夏の歴史館」について

横山補佐 開催のご案内（開催チラシ）

(4) 萩図書館周辺駐車場（第3駐車場）のゲート化について

横山補佐 大河ドラマ館、第3駐車場の駐車券を図書館に持ってきてもらえば無料で利用できる。

7. その他

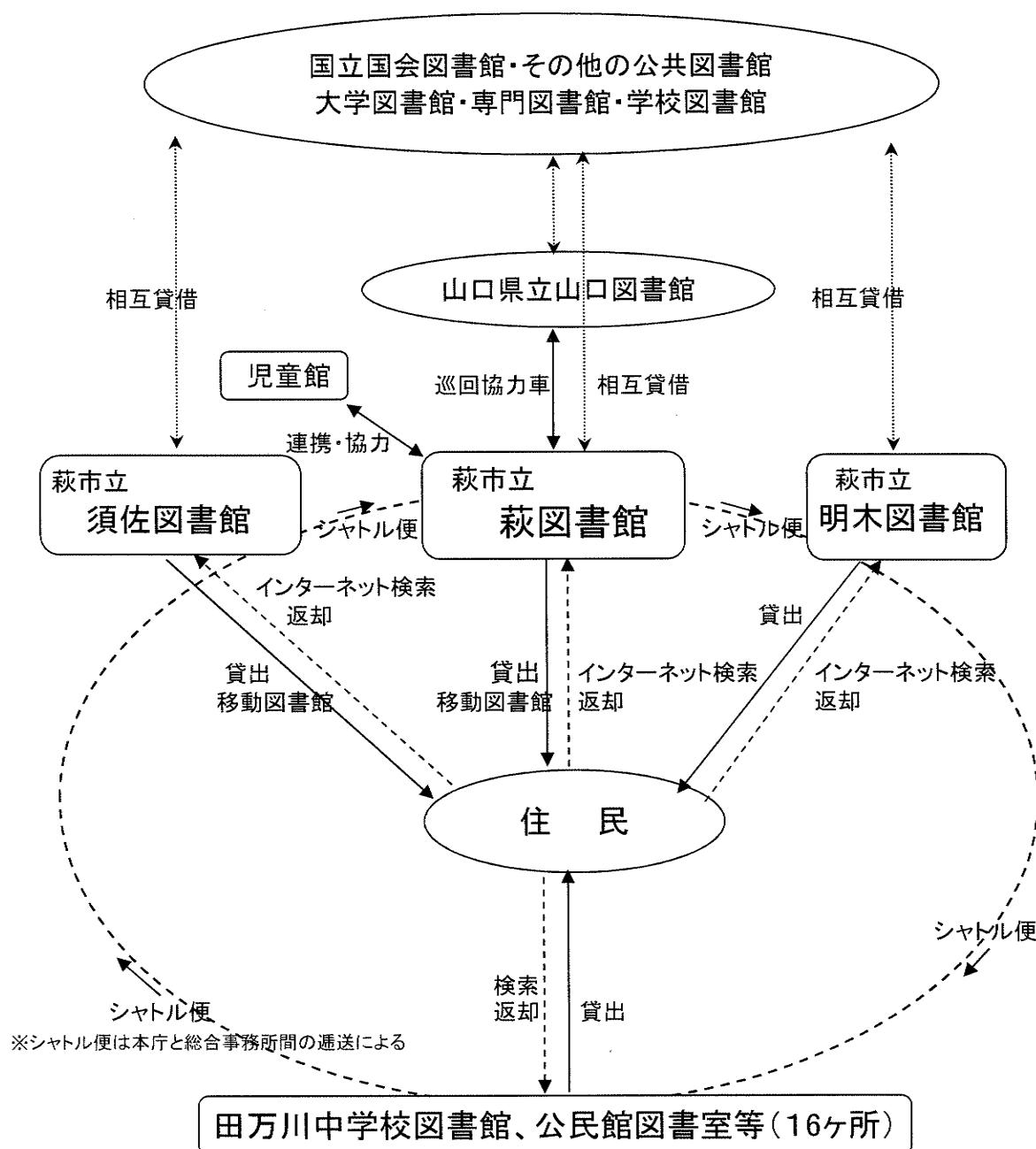
横山補佐 次回協議会は28年2月に開催の予定。

澤井理事長 クリアファイルを作成した。協議会委員に配布する。1枚200円で販売するのでPRしていただきたい。

8. 閉会のことば（野上館長）

長時間に渡る協議を感謝する。議題のボリュームの割には意見をいただく時間が少なかつたような気がする。初めて参加し、図書館の現状と課題を少し理解できた。これから図書館の運営については、意見をいただきながら、より良い図書館運営ができたらよいと思う。明木図書館については、教育長のあいさつにもあったが、小・中学校との併設ということで、新しい取り組みができたら良いと考えている。それについても皆様からのご意見をいただきたい。本日はお疲れ様でした。

現況（2） 各図書館等との連携



現況 (3) NPO法人との「協働」による管理運営体制

図書館

●市職員

- ・図書館全般に係るコーディネイト
- ・運営方針、計画の決定
- ・予算、執行、決算
- ・施設維持管理及びシステム管理
- ・図書の選書・除籍
- ・専門的なレンタルサービス
- ・他の図書館・公民館・学校との連携
- ・統計(図書館年報等)
- ・啓発・普及活動
- ・図書館協議会
- ・広報活動
- ・電子図書館の運営
- ・アーカイブ事業の推進など

委託

- 例)
 - ・カウンター業務(貸出、返却、予約登録等)
 - ・レンタルサービス(子ども図書館等)
 - ・障がい者サービス(録音図書の郵送貸出等)
 - ・移動図書館サービス
 - ・図書館間協力(相互貸借等)
 - ・図書資料の発注、受入、データ入力等
 - ・書庫資料の整理・データ入力等
 - ・蔵書点検、書架の整理
 - ・企画(特集、行事等)
 - ・広報(図書館だより、ホームページ作成等)など

●NPO職員

●NPOボランティア

- 【無償】
 - ・書架整理班
 - ・絵本、紙芝居読み等の児童サービス班
 - ・イベント班
 - ・花壇の手入れなどの環境美化班
 - ・寄贈本の整理班
 - ・日本近現代史を読む読書会班
- 【有償】
 - ・軽食、喫茶の運営(有償)など

資料2

課題 (1) 図書館利用者の固定化

利用登録者数の推移

	萩図書館	須佐図書館	明木図書館
平成23年度	8,736(1,597)	920(86)	186(68)
平成24年度	7,938(1,115)	912(80)	155(12)
平成25年度	7,738(1,023)	774(76)	150(15)
平成26年度	7,351 (963)	738(65)	169(10)

※()内は新規利用登録者数

入館者数の推移(参考)

	萩図書館
平成23年度	388,090
平成24年度	347,178
平成25年度	348,361
平成26年度	318,250

※図書館利用者が固定化しているため、利用者層の拡大が課題となっています。

資料4

課題（2） 学校図書館との連携

現況（平成26年度）

○市内学校数

小学校数 21校 / 中学校数 15校

- ・貸出文庫実施校・・・9校

白水小学校 / 大島小学校 / 見島小学校 / 相島小・中学校

明木小学校 / 育英小学校 / 明木中学校 / むつみ中学校

- ・移動図書館巡回校・・・27校

小学校 18校 (明倫小・相島小・見島小を除く)

中学校 9校 (大井中・相島中・見島中・萩東中・萩西中・田万川中
を除く)

- ・読み聞かせボランティアへの支援（出前・来館）

小学校 3校 (越ヶ浜小・小川小・佐々並小)

- ・図書館の利用指導を実施（来館）

小学校 4校 (大井小・明倫小 3回・越ヶ浜小・明木小)

- ・図書館職員による読み聞かせの出前

小学校 2校 (育英小・佐々並小)

- ・職場体験の受け入れ

中学校 6校 (萩西中・萩東中・大島中・須佐中・阿武中・
萩総合支援学校中等部)

- ・学習支援図書の提供

随時職員が電話カウンター等で受け、件数としてはカウントしていない。

- ・学校図書館支援員の配置 4校（2名）

小学校 2校 (明倫小・椿東小)

中学校 2校 (萩東中・萩西中)

- ・PTA 等による「読み聞かせグループ」
小学校 9校 (明倫小・椿東小・越ヶ浜小・椿西小・育英小・弥富小・
多磨小・小川小・佐々並小)
中学校 1校 (萩西中)

※課題

各学校の図書館に対する要望の把握が不十分
充分な調べ学習支援が不十分
読み聞かせボランティアの支援が不十分

課題（3） 市職員司書、NPO 職員司書の人材確保

*萩図書館の運営は、萩市と NPO 法人との「協働」で行い、須佐、明木、田万川の各図書館は萩市の「直営」で行っています。

*萩図書館では職員司書は管理業務が主体、須佐など3館では市職員は実務業務と管理業務を併せて行っています。

*NPO 法人の理事（司書）は、行政の考え方を理解して総合的な判断のもとで図書館運営を行い、併せて NPO 職員司書の育成に務めています。

NPO 職員は意欲的に職務を遂行していて、近い将来、NPO 職員の中から理事が誕生して「協働」のステップアップが期待されています。

こうしたなか、

◇萩市の職員司書は極少数で、臨時雇用の職員等と一緒に鋭意運営に務めているのですが、長期的な視点で運営の安定化を図るためにには、司書職を年代を繋ぐ形で確保することが必要です。一般職としての有資格者を含め計画的な採用が重要で、当局と合議することにしています。

◇NPO 法人に関しては、地域に根ざした図書館の発展を支えるには、職員の安定雇用が欠かせません。そのためにも処遇計画を明確に策定して安定した人材の確保も当局と協議する考えです。

報告（1） 子ども読書活動推進事業について

1. 「萩市子ども読書活動推進計画」（平成25年～29年）について

国を挙げて子どもの読書活動を支援するため、平成12年を「子ども読書年」と定め、平成13年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行し、平成14年には推進のための第一次計画、平成20年には第2次計画が策定され、自治体等に子どもの読書環境整備を推進することを求めました。

山口県では平成12年の「子ども読書年」の全国的な盛り上がりの中で、いち早く民間の「山口の子ども読書年」推進実行委員会を組織し、さまざまな取り組みをより実行性あるものとするために、平成16年に第一次「山口県子ども読書活動推進計画」を、21年には2次計画を策定し、子どもの読書活動推進に関する施策の方向性を示しました。

萩市では、平成25年度に「萩市子ども読書活動推進計画検討委員会」を設置し、同年3月に計画を策定しました。子どもの読書活動推進のため、図書館ではどのような活動を行なっていくのか、学校や保育園、幼稚園などにはどのような支援ができるのか、地域の人々にどのような役割を期待するのか、市民自身による活動を行政はどのように支援するのか、などについて、具体的に方向性を定めました。

2. 図書館の取り組み目標・・・別紙1

- ①図書館での子どもの読書活動の推進のために、5項目の取り組みを掲げています。
- ②子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援として、6項目の取り組みを掲げています。
- ③子どもの読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動として、3項目の取り組みを掲げています。

3. 目標達成のための具体的取り組み事項・・・別紙2

4. 今年度の取り組み(山口県立山口図書館との共催事業)

今年度は、萩市内で子どもの読書活動推進に取り組んでいる他機関とのネットワーク構築と連携による、子どもの読書環境整備のさらなる充実を目的に事業を開催します。11月の事業開催を目標に、下記の機関で実行委員会を組織し、事業を開催します。

- ・他機関
- 市役所 学校教育課・子育て支援課・生涯学習課・健康増進課等
- 学校 学校図書館支援員・読み聞かせボランティア・図書部会教員等
- 図書館 山口県立山口図書館・NPO 萩みんなの図書館・各図書館職員・
図書館協議会委員等
- その他 児童館・萩子どもセンター・母親クラブ連絡協議会・保育協会・
幼稚園連絡会・保健推進員・
おはなしの出前「ジョイントネット 萩 草の芽」

資料6 別紙1

子どもの読書活動推進のための取り組み

図書館は、子どもが豊富な図書資料の中から自由に選択し、読書を楽しんだり、知識を得たりすることができる場です。また、保護者にとっては、子どもと一緒に読む本を選択したり、子どもの読書について職員等に相談することができる場所です。これからも子どもの読書活動推進の拠点となる施設としての専門的役割が期待されています。

子どもたちがたくさんの良い本と会えるような環境整備を総合的に行いながら、読書意欲を向上させる活動を積極的に推進していきます。

(1) 図書館での子どもの読書活動の推進

① ネットワーク化によるサービスの推進

萩市では、萩図書館、須佐図書館、明木図書館の全3館の図書館が統合された図書館システムにより、資料の貸出や予約の受付等を行い、また効率のよい検索ができるようにしています。さらに子どもの読書活動に役立つよう読書通帳を導入しています。

このことにより、読書や図書館への関心を高めてもらうようにしています。

② 団体貸出の実施

幼稚園・保育所・小中学校・ボランティア団体等の団体に対して、希望に沿った本を長期間まとめて貸出しています。また、大型絵本や大型紙芝居は、団体に限り貸出しをしています。子どもの読書活動推進をしている団体のために、様々なニーズに応えられるよう蔵書の充実に努めます。

③ 貸出文庫の実施

子どもの読書活動を推進する上で、子どもの身近な場所に本がある環境を作ることが大切です。そのため幼稚園・保育所・小中学校・公民館等に定期的に必要な本の貸出しをしていきます。

④ 移動図書館車の巡回

図書館から遠距離にある地域や図書館への来館が困難な子どもの読書活動の支援ができるように、移動図書館車「わくわく号」「まなぼう号」を運行しています。

また幼稚園・保育所・小学校等を定期的に巡回訪問しており、子どもたちにとって幅広い分野の本にふれるよい機会となっています。さらに子どもたちの興味や関心に応える本を提供できるよう蔵書の充実に努めます。

⑤ 学校への協力

授業内容に沿った資料の提供、調べ学習に役立つ資料の提供などの支援をしていきます。さらに学校図書館の横断検索システムの導入を視野に入れて、学校図書館活動に協力ををしていきます。また学校図書館活動や子どもの読書推進に関する研修会、読書活動関連行事等の紹介及び情報の提供をしていきます。

(2) 子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援

① 蔵書の充実

子どもの幅広い知的 requirement や子ども読書活動推進者のために蔵書の充実に努めます。特に乳幼児の本の充実に努めます。さらに発達段階に応じた児童コーナーやティーンズコーナーを設け、子どもたちの読書のニーズに応えられるよう蔵書の充実に努めます。

② 子どもの図書コーナーの充実

発達段階に応じた子どもの図書コーナーでは、本に興味をもってもらうためにレイアウトの工夫をした特集コーナーを設置しています。さらに図書リストを作成して、年齢に応じた子どもが利用できる館内環境を確保していきます。また市内に居住する外国人の子どものために、外国語図書資料の収集も進めています。

③ 電子図書館

家庭のインターネットと接続されたパソコンの画面上で、いつでも電子書籍を借りて読むことができます。問題集、3D（3次元画像）の動物図鑑、言語学習のできる音声付のものや萩図書館所蔵の貴重資料を見るすることができます。

④ 読書に障がいのある子どもへのサービス

読書に障がいのある子どもの読書活動を支援するために、「点字絵本」や「布の絵本」「D A I S Y 図書」等の充実に努めます。

⑤ 読書活動ボランティアの活動支援とおはなし会の協力

子どもの読書活動にかかわる団体との連携を図りながら、ボランティアの協力によるおはなし会を開催していきます。また、これらの活動には幅広い知識や技能・技術が必要となるため、研修会や講習会を開催して資質向上を図るとともに、新しい人材の育成に努めます。

⑥ 図書館職員の資質の向上

子どもの読書環境の充実のため、子どもの発達段階に応じて子どもと本を結びつける技術をもった職員を養成するための研修に努めます。

(3) 子どもの読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動

① 図書館行事の開催

未就園児対象のおはなし会、幼児・小学生対象のボランティア団体によるおはなし会等では、子どもたちに楽しく本と出会える機会を提供しています。特に、お正月やクリスマスなどの季節に合わせたイベントやおはなし会を開催しています。さらに図書館に親しみ図書館の利用を促すために、おはなし会や子ども向けの楽しい行事の充実に努めます。

② 図書館見学・職場体験の受け入れ

小学生の図書館見学、中学・高校生の図書館職場体験を受け入れています。今後も積極的に図書館見学、職場体験を通じて、読書の楽しさや大切さに気づいてもらい、図書館に行くきっかけづくりを支援していきます。このような体験を通して、図書館を身近に感じる子どもが増えることは、将来の図書館の利用者の拡大につながります。

③ 啓発・広報活動の推進

子どもにとっての読書活動への関心と理解が、市民の間に広く深まっていくように子ども向けの読書活動やイベントの内容をホームページや地域メディア等を利用して、情報提供をしていきます。子どもや保護者が読書活動に興味や関心を示すことで、読書環境の一層の充実に努めます。また、他の機関や団体による子ども読書活動関連行事等の情報提供も行っていきます。

資料6 別紙2

萩市子ども読書活動推進計画「具体的な施策」

市立図書館における取組

予約、搬送、貸出等のシステムの拡充	○団体貸出・移動図書館によるサービスの充実	市立図書館 (萩・須佐・明木 図書館)
幅広い図書館サービスの充実と環境整備	○計画的な図書資料の購入	
	○児童書コーナー、子ども図書館の蔵書の充実	
	○ティーンズコーナーの充実	
	○障がいのある子どもが利用しやすい資料の収集	
	○外国语で書かれた絵本や児童図書の収集	
職員体制の整備	○子どもの読書案内相談の対応	
	○図書館職員研修の充実	
子ども向け行事の充実	○子どもの発達段階に応じた絵本の読み聞かせやお話し会等の諸行事の実施	
	○本の帯コンクールの開催	
	○読書通帳の普及	
保護者対象子どもの読書活動を推進するための行事等の開催	○子どもの読書活動に関わるボランティアに対する読み聞かせの方法・本の選び方与え方の研修会の実施	
	○ホームページ等を活用し、児童読書関連の情報発信	
	○新規に購入した児童書リストの作成	
図書館行事や読書に関する情報提供	○おすすめブックリスト等を作成・配布	
	○児童図書の相互貸借、レファレンス・サービスの協力の強化	
他の公立図書館との連携	○学習用図書等の団体貸出の充実	
	○図書館訪問、職場体験学習の受入	
幼稚園や保育所等、公民館や児童館等の連携	○団体貸出の充実	
	○お話し会や児童図書に関わる各種の相談に対応	
「子ども読書の日」の周知を図る	○特別行事の開催	
	○広報活動の実施	

報告（2）図書館界の現況

山口県の公共図書館 56館
山口県大学図書館協議会 11大学
山口県学校図書館協議会 457校

（「小学校305」（内萩21）「中学校152」（内萩15））

*上記三者で山口県図書館協会を組織しています。当館も加盟しています。

上部団体に日本図書館協会があります。

◇全国の公共図書館の数は、3、228館。蔵書総数は、1、760万冊。
年間の購入費は286億円となっています。

◇運営は、ほとんどの館が行政の直営ですが、職員の大半が嘱託職員や臨時職員となっていて、どの館も多くの課題を抱えています。

◇近年は指定管理者制度の導入が進められ、外部の人たちで運営されるケースが増えてきました。

協会の調査によりますと、全国3、228館の内396館が指定管理者制度を取り入れており導入率は12、3%となっています。

◇萩市の場合、NPO法人と大枠で協働し、日常業務はNPOに委託するという方式をとっています。全国的に例がなく成功するのかどうか、成り行きが注目されています。